

南無阿弥陀仏は
私のいのち



平成 28 年
9 月号

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
http://saitokuji.tobiro.jp/
発行人 脇阪 義幸
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



(西徳寺境内)

交錯する思い

先月、四年に一度のオリンピックがブラジルのリオデジャネイロで開催され、各国の代表選手が様々な競技で競い合った。日々の練習の成果を存分に発揮すべく、選手達の自力を尽くしきった姿は世界中に深い感動を与えた。

特に印象に残ったのが、レスリング日本代表の吉田沙保里選手だ。前人未到のオリンピック四連覇が掛かった試合は、全世界が注目していたと言っても過言ではないだろう。結果は惜しくも銀メダルだったが、その背後には想像も出来ないようなプレッシャーがあったかと思ふ。

周囲の期待と吉田選手の勝利への思いが重なりながらも、不安や恐れは最後まで消えなかったのではないだろうか。このような事は、なにもトップアスリートに限ったことではなく、私達にも共通することだと感ずる。

種々様々な出来事が起きる日常に於いても、自身身の「思い」をベースにしているが、その「思い」は状況によっていとも簡単に变化する。このように私達は、不安定な「思い」に振り回され、時には不安や迷いを生み出してくる根っ子を抱え生きている。

しかし、そのような在り方に気付くのは容易ではない。私の思いでは計りきれない程の自己を知らされることは、目的を達成した時よりも、思い通りにならない現実こそ、自己を知らされるきっかけがあるのかもしれない。

それこそ、親鸞聖人の一生涯も順風満帆ではない中で、教えに自己を尋ね続けられた歩みには、自己との出遇いが与えられていたことを、私達に喚びかけて下さっているのではないだろうか。

(大橋 伊知郎 記)



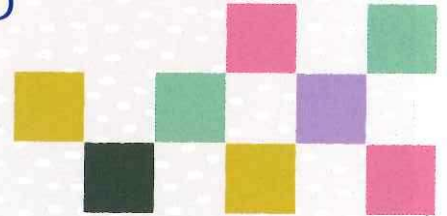
【ご案内】 秋季永代経法要



9月21日(水) 午後1時30分
2時00分
3時00分

お勤め(阿弥陀経)
法話：住職・山崎 哲
おわり

平成28年度 秋季彼岸
9月19日(祝) お彼岸の入り
9月22日(祝) お中日
9月25日(日) お結願



残暑が続く中でも、日ごとに空は澄み渡り、涼風感じ、草むらの虫の声に耳をかたむけ、秋の気配に時の移行を思います。

お盆につづく秋の彼岸も間近になりました。此岸に生きる自分自身一つまずき・踏み外し・落ち込んでばかりの私一を知らしめられる日として、まず南無阿弥陀仏のおしえを聞かせて頂く日にしたいものです。

例年の通り、西徳寺では彼岸中に上記ご案内の如く「しゅうきえいたいきょうほうよう秋季永代経法要」をおつとめ致します。

「永代経」とは、どんなお経？と聞かれた人がおられました。もちろん、そんなお経はありません。永代にわたってお経をあげるという意味から、そう呼ばれているのです。真宗における「永代経」は、亡き人をしのび、この法要を通して代々にわたって伝えられてきたお念仏のみ教えをさらに深く訪ね、聞法させて頂くご縁に会わせて頂くのです。

親鸞聖人は、亡くなられた方々を「諸仏」と拜まれました。こんな私を南無阿弥陀仏の教えに導いてくださった尊い方々であるということです。亡くなられた方々がおられなければ、お念仏はおろか手を合わせることもすらしめないのではないのでしょうか。(住職 記)



熊本地震に対する救援金のお礼とご報告

平成28年9月1日
西徳寺住職 脇阪 義幸

門信徒 各位

熊本地震により被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。地震の収束と皆様の安全を願うとともに、一日も早い復興をお念じ申し上げます。

寺務所・華香所・本堂に設置いたしました募金箱と、お振込頂きました救援金を集計いたしましたので、下記のとおりご報告いたします。

ご協力いただきました皆様方には厚く御礼申し上げます。

多くのご支援を賜り誠にありがとうございました。

- 1 集計期間 平成28年4月20日～平成28年7月31日
- 2 救援金総額 (振込 929,000円 募金箱 345,668円)
計 1,274,668円
- 3 送金先 熊本県指定口座

なお、募金箱・振込口座は引き続き設置いたしておりますので、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

親鸞さんのことば

是非しらず邪正もわかぬ

このみなり

小慈小悲もなければ

名利に人師をこのむなり

『正像末和讃』

松井憲一

『正像末和讃』は、親鸞聖人が、阿弥陀仏の本願に出遇った自分の姿を、痛み悲しんでおられる和讃が多く収められています。これは、その『正像末和讃』の末尾にある和讃です。聖人は、「是非しらず邪正もわかぬ このみなり」と、何が是であり非であるのかさえ分からず、何が邪であり正であるのかも、明確に把握できない自分であるといわれます。

わたしたちは、是非や邪正は分かっているつもりですが、「いい人とわるい人とは 同じ人」であるのに、「いい人」「わるい人」がいると、分かったつもりになっているのではないのでしょうか。他人を自分勝手な人だと思

ことはあつても、自分が勝手者とは容易に気づきませぬ。他人の不正にはよく気づきますが、自分の不正は、棚上げにしがちです。「不正」と続けて書くと「歪み」という字になります。が、わたしの分かり方は、全部歪んでいるのではないのでしょうか。

「小慈小悲」とは、人間らしい関係を大切にす愛情のことです。聖人は「小慈小悲もなければ 名利に人師をこのむなり」と、人を哀れみ悲しむ心も持ち合わせていないにもかかわらず、名利（名聞利養・世間の名声や利益）を求めるとらわれて、人の師となることをこのんでいると懺悔されます。

わたしたちは、はじめて先生とよばれて、誰のことかと思つて返事もできなかつたのに、慣れてくると当たり前になり、そのうち後ろにおられる先生をよばれたのに、自分のことと思つて、返事してしまうほど、横着になります。医者の方川一光さんは、「背中を掻いてもらつているのに、「そこちがう。あんさん、わてのかゆいところがわからんのか」と言う人いるやろ。人ってね、親切にされると最初は感謝しますな。だけどいつも大切にされていると、今度は不満

が出てくる。至れり尽くせりの世話を受けていると、手が届かないところがかゆくなつてくるんや。人間って欲深いものですな」といつておられます。

聖人は、関東の二〇年ほどの生活の中で、法然上人から教えられたお念仏の教えを、「いし、かわら、つぶて（唯信鈔文意）」のように生きる苦悩の人々に語り続けられました。それは、ともにお念仏を頂いて「煩惱を具足しながら、無上大涅槃にいたる（回）」ためであつて、世間の名声を得るためではありませんでした。だから、お弟子たちが、あの人は私の弟子この人は他人の弟子という、言い争いがおこつたときに、「親鸞聖人は弟子一人もたすさうろう（歎異抄）」といいきられるのです。

それにもかかわらず、「小慈小悲もなければ 名利に人師をこのむなり」といわれるのは、聖人が六十歳を過ぎて京都に帰られた理由の一つは、たくさんの同朋が誕生してお師匠さまとよばれることの危うさに気づかれたからだといわれています。

ラジオを聞いていましたら、「目下の人に言うてならんことが三つあるといつて、一つには説教すること。二つ



には昔話を繰り返すこと。三つ目は自慢話をする事」といつていました。考えてみますと「説教・昔話・自慢話」をするなどいわれたら、何も話すことがなくなつてしまうのではないのでしょうか。教えにあえば、名利を求めるとは、わたしの日常にいつも出没していることが知らされ、仏の大慈悲が仰がれます。

お念仏の中で、「是非しらず邪正もわかぬ このみなり 小慈小悲もなければ 名利に人師をこのむなり」の我が身に気づいていきたいものです。

山門の言葉

天上天下唯我独尊

～一人ひとりの尊さ～

玩具売り場でダダをこねる子供に母親が「よそはよそ、うちはおうち」と言っていた。私も幼い頃、同じ事を言われた覚えがある。友達を持つているのに、自分と同じ物を持つていない。当然の不満であろう。

このことは親子だけでなく、いつも優れた人を羨み、劣った人を蔑み、他の人との比較の中で自分を定めて生きているのではないだろうか。

今月の言葉は、釈尊が誕生されてすぐ、七歩歩き言ったと伝えられている言葉である。この言葉は単に特定の人々が偉いという意味ではなく、天上天下、誰とも比べようがない、一人ひとりの尊さが言われているのである。他と比べてばかりいる私には、簡単に領けない言葉である。

しかしよくよく考えてみると、生まれてきた場所や、今まで経験してきたこと、全てが他の人とは違うことである。それを誰かの責任にして愚痴をこ

ぼしていたら、空しい人生のまま終わって行くのではないだろうか。私の思いに閉じこもって迷い続ける生き方を、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天の六道を流転すると教えられる。釈尊が七歩歩かれたのは、六道を超えることだと教えられた。

つまり私が今、ここに、このようにしてあるという、私の思いはからいを超えた事実と、この事実を成り立たせているはたらき、実はそれが尊いのである。他と比べようがない尊いのちをいただいているのである。そののちをいただけず、六道を流転する私に、釈尊が時代を超え、尊いのちを我がいのちとせよと、呼びかけている言葉なのである。

(仲井 真裕 記)



日誌

- 7月21日 責任役員会・総代会
- 7月23日 社交ダンス練習会、混声合唱団「エコー」練習
- 7月24日 中央ブロック会聞法会(本堂 参加者27名)
- 7月26日 仏教青年会夏季ミーティング「仏教と祈り」
法話 脇阪住職
- 7月27日・28日 宗祖忌
- 7月27日 婦人会聞法会
- 7月29日 東京教区会(新横浜・大谷顧問 参加)
- 7月30日 社交ダンス練習会、混声合唱団「エコー」練習
- 8月5日 責任役員会

- 8月6日 社交ダンス練習会、混声合唱団「エコー」練習
- 8月7日・8日 中興忌
- 8月13日～16日 孟蘭盆会

えこお志お礼

- 台東区 磯田 範雄 様 鎌ヶ谷市 鈴木 秀夫 様
- 新潟県 横山 淑子 様 大田区 山上 皓一 様
- 江戸川区 形屋 顕弘 様 北区 小山 光子 様
- 柏市 山本 英男 様

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。



第 323 号

婦人会専用口座：
名義 西徳寺婦人会
番号 10030 239 82431

● ～法語カレンダーに聞く～ (2016年7月号)
「往くも還るも他力ぞと ただ信心をすすめけり」



五月の初旬に、新婚旅行でオーストラリアへ行ってきた。私は以前、留学していたので、久しぶりの海外に胸が踊っていたが、妻は人生で初めての海外旅行ということで、楽しみな気持ち以上に不安な思いが強かったようだ。普段まったく乗り物酔いをしないのに、酔い止めの薬を買ったり、普段あまり汗をかかないのに、離陸直前は手に汗をべったりかいたり、緊張の連続であったようだ。飛行機やパイロットに任せるしかない、自分の力ではどうしようもないのはわかっているのだが、どうしても任せきれない。

これは単なる笑い話では終われないのではないか。日常生活においても、家事や仕事の上で、全部任せたといいても、自分の思うようにならないとついつい口を挟んでしまう。私たちの心は全面的に任せることができない、疑いっばなしなのである。しかし我々の眼はそのことにとことん昏い。

他力とは、他人任せということではなく、どこまでも任せきれない、疑うことをやめられない、その心をはっきり照らし出すはたらきが、阿弥陀仏の力であろう。「往くも還るも」とは、私共に先立って、離れることのできない執着の心をかかえたまま、お念仏を依り処として生き抜いていかれた、よき師の言葉ではないだろうか。

(蓮井 邦宗)



● 次回聞法会ご案内

口 時 平成 28 年 9 月 14 日(水) 午後 1 時～ 3 時
場 所 西徳寺 星月の間
法 話 法語カレンダーに聞く(真宗教団連合カレンダー)
「一生悪を造るとも 弘誓に値いて救わるる」
最高顧問 大谷 義博・蓮井 邦宗



● ひとこと

新しい春が巡ってきて、婦人会総会も無事に終わりました。

大谷最高顧問様のご法話を久しぶりに聞きまして、ありがたく思っています。暑くなりますが、皆様と聴聞していきたいと思っていますので、体にはくれぐれも気をつけてください。

(児山 治子)



掲示板

平成28年 9月

- 3日(土) 午後1時 社交ダンス練習会
 午後2時 評議員会定例役員会
 午後3時15分 混声合唱団「エコー」練習
- 9日(金) 午後1時半 『唯信鈔』に聞く 講師 宗正元師
- 10日(土) 午後6時 同行会「現代の聖典」に聞く
 法話 仲井 真裕
- 13日(火) 午後7時 仏教青年会『歎異抄』に聞く
 講師 宗正元師
- 14日(水) 午後1時 婦人会聞法会
- 17日(土) 午後1時 社交ダンス練習会
 午後1時半 定例聞法会
 午後3時15分 混声合唱団「エコー」練習
- 19日(月)～25日(日) 秋季彼岸会
- 21日(水) 午後1時半 秋季永代経法要
 法話 脇阪住職 山崎 哲

仏教青年会夏期ミーティング



去る7月26日(火)、青年会夏期ミーティングを行いました。今年は青年会役員たつての希望により、脇阪住職から講義をいただきました。講題は「仏教と祈り」。私たちは仏教によって救われると思っていますが、そもそも何を祈り、願っているのか、そういうことが呼びかけられたように思います。また仏教の教え、浄土真宗の教えは、もっと身近なものなのだと教えていただきました。

次回は9月13日(火)、宗正元先生から『歎異抄』の講義をいただきます。皆様のご参加をお待ちしております。

(仲井 真裕 記)

永代経ってどんなご供養ですか？

一般的に永代経とは、永代経懇志を納めて頂き、永代にわたり、ご先祖の祥月命日にお寺がお経をお勤めすることとなります。

真宗において永代経とは、仏法が代々に受け継がれていくことであり、お釈迦様が明らかにされた南無阿彌陀仏のみ教えを、子々孫々にまで伝えて欲しいという願いによるものであります。ご先祖の命日をご縁として、この私が永代にわたり仏法に出遇わせていただくことが願われているのであります。

西徳寺では、永代経のお申し込みについて、永代経懇志(お一人)30万円となっております。ご希望の方、または詳細についてのお問い合わせは木村主任までお尋ねください。

電話 03(3875-3351)

聞法会だより・中央ブロック会

去る7月24日に本堂にて中央ブロック会聞法会が開催されました。本間明会長からは「本堂には一体何が荘厳されているのかを一緒に学びたい」といったご挨拶があり、脇阪住職から荘厳について詳しい説明をしていただきました。普段では入ることが出来ない内陣に上がった参加者の皆さんは、興味深く一つ一つの説明に耳を傾けていました。



内陣内にはたくさんの寄進者の名前が書かれています。皆様からの

お支えによって本堂が成り立っていることを改めて感じさせていただきました。

(高橋 淳 記)

編集後記



8月上旬、ご葬儀が続きました。初七日の後のお斎でお身内が「亡くなった母は日頃から健康には留意して、摂生して暮らしていました。それなのに脳溢血であっけなく逝ってしまった」と言われ、「そんな母の姿を見ると、私は好きなように生きていきます」と仰いました。

この話を聞いていた親族の方が「お前の傍には家族が居るのに、随分と身勝手な言い草だな」と返されました。大切な方との別れを通して、我がいのちの意義を念仏のみ教えに尋ねていくご縁、それが葬儀であることを再認識させていただきました。

(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：

HP <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。(メールでも結構です)

✉ saitokuji@ce.wakwak.com